

福井県医師会

だより

第595号 平成23年(2011)1月

新春特集号



日本アルプスと日本海

福井市 吉村 信

表紙写真説明：日本アルプスと日本海

福井市 吉村 信

冬の日 羽田を早朝に発つと、晴れた日には、雪を戴く日本アルプスと日本海を一望する鳥瞰図に巡り合うことがある。

澄みきった大気のもと、朝日に輝く白雪の峰々と、それらが溶け込むが如き翡翠色の日本海は、我々北陸人の原風景とも言うべき景色であろう。

神々しき 白峰の彼方^{あなた} 日本海

新年のご挨拶

福井県医師会長 松田尚武

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで決意を新たに良き新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

旧年中は、私達執行部に対しまして暖かいご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、民主党政権の下で一昨年より始まった事業仕分けは、昨年秋、第3弾となる特別会計仕分けで終了いたしました。第1弾以来、財源調達面においては徐々にその限界が明らかになり兆単位での恒久財源を期待することはできないことが明らかになりました。

このような中で、昨年11月に発表されました2008年度の国民医療費は前年度比2.0%増の34兆8084億円と、過去最高を更新いたしましたのであります。これは医療技術の進歩によるのももちろん大きいものがありますが、やはり高齢化の影響によるところは「待ったなし」の状況でございます。

国民1人当たりの医療費は27万2600円ですが、年齢層別では65歳未満の平均が15万8900円であるのに対し、65歳以上は67万3400円と現役世代の4.2倍にのぼり、さらに75歳以上では83万円と5.2倍にもなっているのであります。しかも、わが国の高齢化傾向は向こう40年間で見てもその傾向は大きく変わらず、特に75歳以上の後期高齢者人口の占める割合は倍増すると予測されております。

先般、政府・与党に「社会保障改革検討本部」が、また民主党には「税と社会保障の抜本改革調査会」という検討会議が設置されました。ここでは将来の社会保障に焦点を当てつつ、税制について議論がなされていくということでもあります。

この対応はもっとものことであり、早急に医療保険制度また医療提供体制を根本から見直さなければ、日本の医療制度は間もなく崩壊するであります。

そして、そもそも社会保障の制度論、政策論を論ずるときには、まず、あるべきサービスのあり方を考えるのももちろんですが、常に制約要因として負担の問題を考えなければなりません。今、介護保険の改正において「ピアズユーゴーの原則」がさかんに言われておりますが、これは医療を含めた社会保障全般においてもあてはまるものであり、今の社

会経済を基盤として身の丈にあったもの以上の社会保障を望むことは、ある種の我儘でしかないのではないのでしょうか。財源の先食いをせず、将来世代に対する責任を全うするのは現在に生きる現世代の責務であります。もはや消費税負担の引上げ議論を抜きにして社会保障をめぐる閉塞感は打破できないと考えるところであり、また各種世論調査をみても国民の心の準備はできているように思います。

今年こそ、国において税制と社会保障に関する前向きな議論が活発になされることを望むところであります。

一方、福井県医師会は、地域医療のさらなる推進を図るべく本年も心を新たに諸課題に精一杯対応して参る所存でございますが、特に私ども医師会自体のことと致しまして、これまでの民法に拠る公益法人でありました医師会は、新公益法人改革三法に則り、あと3年の間に、新たな「公益社団法人」として、あるいは「一般社団法人」として移行をしていかなければならないことになっております。本年は、この問題に本格的に取り組んでいくことに致しておりますが、ここにおいては、『公益』という名称と、税務面で若干の恩典があるものの運営面においてなかなかハードルの高い制約が課せられる「公益社団法人」に移行するか、或はより実態に即し自由な運営が出来る「一般社団法人」に移行するか、これから会員の皆様のご意見をお伺いしながら検討を始めたいと考えております。

ただ、これは私見であります。医師会が厳格なる『公益法人』となって、事業遂行において赤字が出て、これを会員の会費で補い、県の補助金で賄うというやり方は、これから不可能になるのではないかと考えております。

やはり法人が事業を健全に行い存続していくためには、ある程度の利益を生み出すことを考え、そして内部留保も行いながら将来に備えることは当然必要であると考えているところであります。

会員各位におかれましては、本年もより一層のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年が会員の皆様にとりまして、希望の光が差し込んでくる年になりますよう心からお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。